

生駒市と同市アマチュア無線非常通信協力会

災害に備え連携訓練

協定締結へ 実用性や課題検証



生駒市と同市アマチュア無線非常通信協力会(IAE)は27日、市内での大地震発生に備えた連携訓練を実施した。両者は同訓練の結果も踏まえ、携帯電話の通話も不通となる想定で実施された。地震発生で市役所内の仮想災害対策本部に駆け付けたIAE会員は、仮設アンテナと無線機を設置。市内各地区に住む約40人の会員と無線で通信した。各会員は「電気、水道、携帯電話が不通」「火事が発生」「国道が通行不可」などと自宅や周辺の建物、インフラの被害を報告。同本部内の市職員は、地図やホワイトボードに各地区の被害状況を書き込んだ。

IAEは今年2月、同市

朝日新聞'20/12/28

大災害 アマ無線で情報収集

生駒市、市民団体と初訓練

生駒市は27日、大災害時の被害状況を役所に伝える仕組みを作ろうと今年2月に発足したボランティア団体「市アマチュア無線非常通信協力会」(IAE)と、初の防災訓練をした。大地震が起きた想定で、市内各地にいる会員約30人から無線で近辺の情報を収集。市が集約して様々な判



現場にいるIAEメンバーらと可搬式無線機で連絡を取り合うオペレーター＝生駒市役所

断に生かした。震度6強の地震が発生し、市内の広い範囲で停電したほか、携帯電話やネットも使用不能になったという想定で行われた。市役所4階の会議室に災害対策本部が設置された。ここに、基地局となる充電式の無線機をIAE会員3人が搬入。交信はシナリオ

に沿って行われ、オペレーターが各会員に呼びかけながら状況を聞き取った。「家屋倒壊が2件、住民が救出中」「煙が出ている」など、次々と入る情報をメモ書きして市防災安全課の職員へ。職員たちはボードや地図に記入して状況をつかみ、聞こえにくかったり、情報が足りなかったりした点を、会員たちに聞き直してもらった。

終了後、沢井宏保・危機管理監は「被害の規模はどのくらいか、感触が早めにはわかった。来年の総合防災訓練にも参加してほしい」と話した。IAE会長の杉江久男さん(66)は「指示を出してからの情報を聞くようにしないと交信が混乱する。統制を取るのが難しい」と語った。(伊藤誠)

内のアマチュア無線愛好家の有志で結成。それぞれ非常用電源を整え、災害時に備えている。杉江久男会長(66)は「会員の多くが高齢者。災害時の機動力など課題もあるが、直接通信できる長所を生かして準備していきたい」と話した。

市危機管理監の沢井宏保総務部次長は「(IAEの活動は)災害初期の状況把握に大きな力を発揮する。職員の動員と比べて大幅に時間も短縮できる。協定締結を進めていきたい」と手応えを感じた様子だった。



令和2年12月28日の朝日新聞、奈良新聞の朝刊に昨日の生駒市とIAEとの非常通信連携訓練についての報道が掲載されました。